



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第九号〕

穀雨こくう

四月二十日



ランドセル

ぴかぴかのランドセルを背負った新一年生。近頃は赤色や黒色だけでなく、ピンク色や黄色などカラフルで、個性的。ランドセルも時代とともに変わってきました。

ランドセルの始まりは明治十八年。学習院で馬車や人力車での通学が禁止された生徒が、軍用の背のうに学用品を詰めて通うようになってからのこと。名前もオランダ語の背のうの「ランセル」に由来しています。当初はリュックサックに近いものでしたが、明治二十年、時の総理大臣、伊藤博文が大正天皇の学習院入学を祝って箱型のランドセルを献上して以来、日本の小学生は箱型のランドセルに教科書を入れて、通学するスタイルが定着したのです。

内宮前の宇治の町は、日用品にはこと欠きませんが、ランドセルはさすがになく、かつては伊勢市駅前の山田へ買いに行ったそうです。「間仕切りはなく、ぺっちゃんこ」のランドセルで、上履きや運動靴とともに買ってもらったとか。ちなみに価格は昭和三十年で二千五百円、昭和五十年で一万円に、現在は三万五千円となっています(日本かばん協会ランドセル工業会調べ)。

春も中ごろを過ぎると、雨の多い頃。季節も穀物を育てる雨の「穀雨」となります。柔らかな春の雨に、秋まきの種はぐんぐんと伸び、春まきの種は芽を出し、山は新緑が萌え始めます。今年から、四月二十九日が「昭和の日」、五月四日が「みどりの日」に変更されます。

しっかりと黄色のビニールカバーがかぶせられているランドセル。きつと新入生でしょう。新緑も、新入生もぐんぐんと伸び育ってほしい晩春です。

文 千種清美